

目的 The Woman's World 誌は、オスカー・ワイルドの編集による女性誌で、女性の職業進出や地位向上をめざした啓蒙的な記事を中心とするが、当時の服飾の流行の紹介や、新しいドレスの裁断法なども取り上げている。そこで、本誌の記事を検討することにより、服飾の流行と合理服運動との関係を明らかにすることを目的とする。

方法 The Woman's World 誌1888年～1890年の記事を分析し、服飾の流行に関する記事を他の服飾誌と比較をして検討した。また、合理服運動を女性の地位向上などの記事内容と関係づけ、さらに合理服協会の会議の記事を参考にしながら、この運動の位置づけを考察した。

結果 1888年には最後のピークを迎えたバッスル・スタイルが、1890年には過去のものとなっていくことはすでに明らかであったが、特に注目すべきことは、この時期に散歩服やヨット、テニスなどのスポーツ服のなかに、ファンデーションを用いないウールのスカートや、テーラード・スーツが着用されたことである。これは服飾に新しい分野が登場した事を示しており、しだいに機能的な服飾への意識が表れてきたといえる。

また、合理服に対する意識も変化し、かつてブルーマー夫人の提唱した改良服とは異なり、社会の風潮にふさわしい服飾を考案しようとする傾向もみられる。たとえばディヴァイデッド・スカートもそのひとつであるが、これは、スポーツ服の機能性と共通する方向であると考えられる。